

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

同窓会々誌



撮影 宮川 宣英氏 (撮影場所：三島市近郊)

2009-10 第46号

平成21年度 総会・懇親会 は11月7日 (土)

会誌第46号 目次

ごあいさつ	会長 菱沼 一夫	3
電気電子情報通信工学科の近況報告	教授 今井 秀樹	4
電気電子情報通信工学専攻の近況報告	教授 稲葉 次紀	6
お別れのことば	教授 篠田 庄司	9
お久しぶりです	元教授 小林 健一	11
中央大学の思い出	元教授 羽鳥 光俊	12
NICTにおける研究の近況について	関口 秀紀	15
私の近況	笈川 泉	17
同窓会新会員のご紹介		19
会誌発行事業費の集計報告 (その8)		20
会計報告		21
同窓会財務委員会より	辻 正吾	22
同窓会 新ホームページのご案内	秋田 隆史	23
修士論文発表会 同窓会賞		25
中大電気同窓会 役員・常任幹事		26
会員からのお便り		27
編集後記		31
同窓会総会・懇親会開催のお知らせ		32



ごあいさつ

会長 菱沼一夫

会員の皆様元気でご活躍のことと拝察いたします。同窓会誌第46号をお届けします。

天野浩志前会長には6期12年もの永きに亘り会長をお務め戴き当会の発展にご尽力戴いたことに改めて感謝を申し上げます。天野前会長には新規入会者の大幅減少に伴う財政の貧困化により存続が危くなった当会の経済的基盤の改善のために策定された「会誌発行基金」の募集の先頭に立って、当会の継続を可能にして頂きました。その節（現在も継続中）には、各位に大変なご協賛を戴き改めて御礼申し上げます。同窓会は奇特な方々の協力で運営が成り立っています。特定の方に作業が集中することは会の継続の支障にもなると考え、今期から副会長さんに[総務]、[財務]、[会誌]、[事業]、[HP運営]の仕事を分掌して頂いています。そして天野前会長には新設の事務局長に就任して戴いています。

本会誌46号は会誌担当の飯塚信市副会長の手によるものです。

早速、[HP運営委員会](秋田隆史副会長)と[財務委員会](辻正吾副会長)の積極的な取り組みの成果として、当会の運営の強力な基盤となる「ホームページ」の自前化が実現できました。ホームページの自前化によって沢山の機能が期待できます。我々の同窓会の最大の役割期待は会員各位が思い付いた時に母校の《①同窓会の活動状況、②大学の現状、③出身研究室の動向、④ゼミの同窓会動向》の容易なコンタクトができるようなシステムを提供することにあると考えます。私もそうですが、古い卒業生は所属していた研究室が終焉してしまっていて、連絡起点を失ってしま

った方が沢山おられると思います。ホームページの機能の内、当面は特に③と④の充実に傾注したいと考えています。

第6回目の修士論文「同窓会賞」には、今年も同窓生の起業社のアイコンテクノ社、新規に菱沼技術士事務所に加わって戴きました。ホームページの発展的運用と連携してホームページ運用資金、更に同窓会運営資金の安定化をホームページの収益から図って行きたいと考えています。

今年の同窓会総会は裏表紙の紹介のように47年度卒業（委員長 飯塚信市）のご担当で11月7日（土）に上野精養軒で開催されます。お誘い合わせの上、多数のご参加戴き懇親を深めて戴きたいと存じます。

今年の1月に高窪統教授が不幸な事件で逝去されました。改めてご冥福をお祈りします。当事者は教え子でした。私達は毎年の卒業生に研究室経由と卒業式の当日に入会の積極的な勧誘をしています。

当該者は卒業年度から察すると彼は私達の活動との接点がありました。残念なことに入会には至っていませんでした。同窓会は卒業生の卒業後の悩みの受け皿としての重要な機能があると認識しています。私は一層の痛恨を感じています。各研究室に対してももっと強力な案内を推進する活動に結び付けたいと思っています。この会誌が皆さんのお手元に届く頃には日本の新しい政治がスタートしていることと思います。その変革を期待しています。同窓会総会でお会いしましょう。（7月26日記 39年卒）



電気電子情報通信工学科の近況報告

電気電子情報通信工学科 教授 **今井 秀樹**

同窓会の皆様におかれましては、入学式、卒業式等の行事に積極的にご参加頂くなど、本学科および専攻科の教育に深くご関与頂いています。本年度の電気電子情報通信工学科主任として、皆様の日頃のご支援に深く感謝致します。

平成20年度、本学科には大変悲しく、衝撃的な事件がございました。申すまでもなく、本年1月14日の高窪 統 教授殺害事件です。逮捕された容疑者が本学科の卒業生であったことは二重の衝撃でした。同窓会の皆様にも多大なご心配・ご心痛をお掛けしたことと拝察いたします。

本事件は極めて特異な事件であるとは言え、社会の変化につれ学生の気質が大きく変化している中で発生した事件であることも事実です。中央大学ホームページにおける田口 東理工学部長の容疑者逮捕を受けての声明にもございますように、このような状況の中で、私どもは今後、学生・教職員相互の信頼関係を一層強く築き、勉学、教育、研究に専心することができるような教育環境を維持していくべく努めていく所存でございます。

今年度の電気電子情報通信工学科は、高窪教授を喪ったのに加え、本年3月、羽鳥 光俊教授が定年で退職されましたので、現在のところ、教授は稲葉 次紀 教授、木下 源一郎 教

授、小林 一哉 教授、篠田 庄司 教授、白井 宏教授、杉本 泰弘 教授、築山 修治 教授、二本 正昭 教授、山村 清隆 教授の10名となりました。羽鳥教授は、本学退職後も総務省等の委員や各種団体の役員として活躍しております。

准教授は昨年度と変わらず國井 康晴 准教授、庄司 一郎 准教授の2名です。助教は飯塚 浩二郎 氏が昨年8月に信州大学に転出し、本年4月より久保田 彰 助教が着任しました。久保田助教は羽鳥教授の後任として情報通信放送工学特に画像工学を担当します。なお、久保田助教は東京大学工学系研究科電子情報工学専攻で博士(工学)の学位を取得し、その後国立情報学研究所、東京工業大学を経て本学科に着任いたしました。

また、実験科目を中心に学科教育にご協力頂いている教育技術員としては、安藤 栄一氏、今村 薫 氏、遠藤 泰陽 氏、崔 通 氏、鈴木 一吉 氏、吉田 伸生 氏に、本年4月から超音波利用による研磨デバイス技術開発の経験をお持ちの高橋 新吾 氏、長らくアナログ半導体集積回路に携わり、この道の権威である塚田 敏郎 氏の2名が加わり、8名の充実した体制となりました。なお、教育技術員として長らくご尽力頂いた渡辺 義基 氏はJR 東日本に転出されました。

本学科の教職員にはそれぞれの分野の第一線で活躍されている方が多く、大変充実していると感じています。そのひとつの顕れが、受賞かと思えます。昨年度は二本教授が「トンネル接合磁気抵抗効果型磁気ヘッド（特許3261698号）」により地方発明賞を受賞しました。さらに、同教授は、同じ発明により、本年度全国発明表彰において発明賞を受賞しています。全国発明表彰は社団法人発明協会が主催する賞で、1923年から実施されている歴史ある賞です。また、昨年度篠田教授が、電子情報通信学会の名誉員に推挙されました。名誉員は電子情報通信学会の36,000名の会員のうち約90名しかいません。羽鳥教授も名誉員でしたので、本学科は名誉員の現役教授を2名抱える、全国的にも珍しい学科となりました。本年度、羽鳥教授は退職されましたが、幸い私が名誉員の末席に加わらせて頂きましたので、やはり名誉員2名は変わりません。なお、この他、昨年度の教職員の受賞としては、私の大川賞受賞および内閣官房長官「情報セキュリティの日」功労者表彰があり、また、専攻主任の稲葉教授から紹介があるかと思いますが、大学院生の受賞も数件ございます。

さて現在、本学科には、1年に148名、2年に156名、3年に136名、4年に136名、5年以上に35名、計611名の学部生が在籍しています。昨年度の卒業生は162名で、そのうち56名が本学大学院に進学しました。就職に関しても、昨年度は内定取消しはありましたが、概して大変好調でした。ところが、一転して、本年度の就職内定状況は極めて厳しい

ものがあります。現在の4年以上の学生のうち54名は本学大学院への進学が既に決まっていますが、それ以外で就職が内定し、キャリアセンターに届出を出している学生は6月22日時点で19名に過ぎません。（就職が内定した場合、キャリアセンターに届け出ることになっています。）来年3月卒業見込みの学生のうち、まだ行き先が確定していない学生が半数程度いるという極めて厳しい状況にあります。

今年の就職面接では、専門的な知識や技能よりも、いわゆるコンピテンシーが重視されているように感じます。残念ながら、本学科の入学生たちは、入学後のEQ (Emotional Intelligence Quotient)テストなどによると必ずしもコンピテンシーが高いとは言えない状況のようです。大学としては、今後、コンピテンシー教育にも力を入れていく方針です。しかし、コンピテンシーは座学だけで身に付くものではありません。様々な人と交わり、多くの経験を積むことと自ら試みる意欲とが重要です。私どもも、1年の電気電子情報通信工学概論などの授業や3年の電気電子情報通信実験、4年の卒業研究などを通じて、学生達にそのような指導を行っています。しかし、先輩の方々からの折に触れてのご助言は、教員からの助言よりも、学生に遥かに素直に受け入れられるようです。同窓会の皆様には、先輩として学生達に、今後ともご助言ご激励を賜れば幸いに存じます。

末筆ですが、同窓会の皆様の電気電子情報通信工学科への変わらぬご支援を御願いととともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



電気電子情報通信工学専攻の近況報告

電気電子情報通信工学専攻 教授 稲葉次紀

同窓会の皆様におかれましては、入学式、修士課程の論文発表会、学位記授与式等の行事に積極的にご参加頂くなど、本専攻の大学院学生教育に深くご関与頂き、ありがとうございます。特に修士論文発表会では、産業界での経験を踏まえた鋭くも暖かなご質問、ご激励を頂いています。このため、本専攻の修士論文発表会は他大学院では余り見られない大変有意義な機会となっています。また、この発表会では優れた研究発表を行った学

生に対し、同窓会賞を授与して頂いており、発表会を盛り上げています。以上のようなご支援賜っておりますこと、深く感謝致します。

今年度の電気電子情報通信工学専攻の状況を報告いたします。専攻の教育と研究を10名の教授、2名の准教授、1名の助教で担当しています。各先生の専門は以下のとおりです。(50音順)

- 稲葉次紀 教授 (電力エネルギー、大電流アークプラズマ、故障対策・環境改善技術)
- 今井秀樹 教授 (情報理論、情報セキュリティ)
- 木下源一郎 教授 (ロボット工学、計測制御工学、センシング工学)
- 小林一哉 教授 (電磁波論)
- 篠田庄司 教授 (回路、ネットワーク、システムの理論的研究)
- 白井宏 教授 (電波工学)
- 杉本泰弘 教授 (集積回路工学)
- 築山修治 教授 (VLSI設計技術、アルゴリズム工学)
- 二本正昭 教授 (情報記録、電子材料工学)
- 山村清隆 教授 (情報数理工学)
- 國井康晴 准教授 (宇宙ロボット、テレロボティクス、バーチャルリアリティ)
- 庄司一郎 准教授 (レーザ、非線形工学)
- 久保田彰 助教 (信号・画像処理、情報通信)

なお、一昨年度より大学院に情報セキュリティ科学専攻が設けられ、博士後期課程の担当教員として今井先生と白井先生が所属しています。また、昨年度より、本学、情報セキュリティ大学院大学、東京大学等と企業8社の産学連携による、研究と実務を融合した「高度情報セキュリティ人材育成プログラム (ISS スクエア)」がスタートしました。本専攻からこのプログラムに数名の院生が参加しています。2年後にこのプログラムを修了すれば、情報セキュリティ・スペシャリストの証書が授与されます。

大学院に所属する学生は現在、博士前期(修士)課程在学学生116人、博士後期課程在学学生2人です。更にMOと言う、推薦入試で大学院入学を許可された学部4年生で大学院授業に参加して単位を取得することができる学生がいます。今年度は40名のMO学生がいますが、4年在学中に大学院の講義単位を先行取得することにより、翌年以降は修士論文研究等に集中できるなどのメリットがあります。更に、春の学内選考入試では14名の学部生が既に大学院に合格しています。

学生の就職に関しては、お蔭様で、よい状況が続いています。また、昨今、産業界からはより高い能力を持った学生に対する求人も増えており、専門能力を高めるために学部

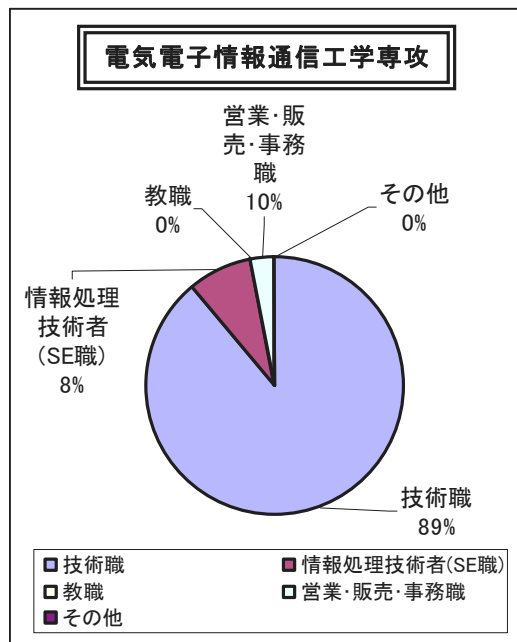
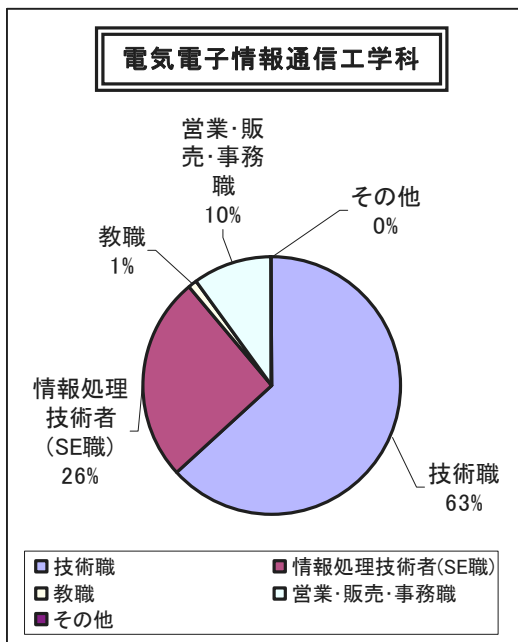
学生に大学院への進学を勧めています。今年も6月には学部3年生を主な対象に大学院進学説明会を開催し、大学院進学の意味と目的、大学院の教育内容、就職状況などを説明しました。大学院博士前期(修士)課程への入学生数は2005年度44人、2006年度45人、2007年度39人、2008年度54人、2009年度60人と推移しており、本学科卒業生の30～40%が大学院へ進学しています。図は2009年3月卒業学生の就職状況です。学部卒では26%がSE職(情報処理技術者)で専門性の高い技術職への就職は63%に対し、修士課程修了者では89%が技術職に就いています。

産業界では厳しい技術開発競争を背景に、特に先端技術分野で即戦力となる新人を求める傾向が強まっています。このような傾向にも対処できる学生を育成するため、修士論文研究、研究室でのミーティング、あるいは学会発表などを通して、学生が自ら考えながら自立して活動する能力を身につけることができるよう努めています。さらに、前述の「高度情報セキュリティ人材育成プログラム」など新たな取組みも行っています。学生諸君には、ぜひ大学院へ進学して自立へ向けての自己研鑽を続けるとともに自らの進路を適切に選択して欲しいと考えています。同

窓会の皆様には、先輩として学生達にご助言
ご激励を賜れば幸いに存じます。

末筆ですが、同窓会の皆様の電気電子情

報通信工学専攻への変わらぬご支援を御願
いするとともに、皆様のご健康とご多幸をお
祈り申し上げます。





お別れのことば

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科

教授 篠田 庄司

ここに謹んで、高窪 統（はじめ）教授のご逝去を悼み、お別れの言葉を申し上げます。

高窪さん、私ども同僚は、あなたを突然に失って、深い悲しみに包まれております。そのことを知りつつも、キャンパスを歩いていると、高窪さんが「先生！」と声をかけてこられるのではないかと、あたりをつい見えてしまいます。

思えば、12、3年前に、私どもの学科の最重要科目の一つである「電磁気計測（当時は、電気磁気測定法といいましたが）」を長年教えられ、「基礎実験教育」に大変な熱意を燃やされていた小林健一教授が退職され、その後任には、同様な貢献をしていただけの人を探さなければならぬと考えておりました。そんな折、上智大学で集積回路や電子デバイスの研究教育をされていた庄野克房（かつふさ）研究室から学位を取られ、実験教育にも熱意を持たれ、既に他の大学に就職されていた高窪さんが、より自分に

合った研究教育環境への移動を希望されているということを法学部教授の加賀美 鉄雄（てつお）教授から偶然にも聞きました。調査の結果、高窪さんが、私どもの学科に移動できるなら、「電磁気計測」を教え、「実験教育」にも熱意を燃やしたいという意向を持たれていることを知りました。研究や講義だけでなく、「実験教育」にも熱意を燃やす若い人が少ない中で、高窪さんは特異な存在でした。そのことがあって、他にも候補がいた中から、高窪さんを学科に迎えることになりました。そのことには、高窪さんも、ご両親も、大変に喜ばれておりました。

高窪さんは、学科に移ってからは、小林 健一 教授の研究室を引き継ぎ、教育では「電磁気計測」の講義と「実験教育」を、卒業研究では「集積電子回路と関連技術」の研究指導を、それぞれ、期待通りに行い、同時に、研究では、庄野研究室出身で、他大学勤務の奥様の「かをり」さんと、アナログ電子回路分野の研究で多くの論文を共同で発表され、

いくつかの注目される成果を挙げられてこられました。なかでも、電気電子情報系で我が国最大規模の電子情報通信学会の2000年2月の論文は高窪さんご夫妻と東京工業大学の藤井信生教授ほか一名との共著の論文で、同学会から2001年5月30日に論文賞を受賞されました。

高窪さんは、電子情報通信学会において、回路とシステム研究専門委員会の幹事と専門委員、基礎・境界ソサイエティの会計幹事、英文論文誌A編集委員会編集委員、ソサイエティ誌担当幹事、出版員会委員、会誌編集委員会を歴任され、今後のさらなる活躍が期待されていました。

奥様は、同学会で、エレクトロニクス・ソサイエティの英文論文誌C編集委員会編集委員ならびに基礎・境界ソサイエティの英文論文誌A編集委員会編集委員を歴任されると共に、男女共同参画委員会の幹事を務められており、共稼ぎで子育てしながら、学会の委員会活動にも、積極的に協力されています。その一面は平成17年11月の学会誌の記事に見ることができます。

奥様のご尊父の関根 敬太郎 博士は、アナログ電子回路の権威の一人で、東京理科大学の教授をなされていましたが、三人の子供さんを育てながら、そのような種々の活躍をされる高窪さんご夫妻に大変に満足されている様子でした。昨年末には、関根博士が仕事

の関連で高窪さんの研究室を訪ねられていたとお聞きしました。

学科の学生はだれも、私ども同僚と同様、なぜ？という驚きと深い悲しみのなかにいることと思いますが、学生たちには、この深い悲しみを乗り越え、勉学を増進され、活躍させることを望みます。特に、高窪研究室に集まり、研究と勉学をされていた学生には、それは、高窪先生の意志に沿うことであると思います。

私ども同僚は、学生のために、この深い悲しみを乗り越え、重要な位置にあった高窪さんの亡き後の学科の教育研究環境の早急なる再生に、あたらなければなりません。高窪さん、ご理解を持って、見守りください。

残された奥様と3人の子供さん、ご母堂、奥様のご両親ならびにご親族の方々にとっても、計り知れない悲劇で、なんと申し上げればよいか、わかりません。いまは、同僚一同、この悲しみを乗り越えていただきたいと願うばかりです。

高窪さんのご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、同僚の代表として謹んで哀悼の意を申し上げます。

平成21年2月27日(お別れの会にて)



お久し振りです

昭和 29 年卒 元教授 小林 健一

この度は暫く振り(H19.10.27 10 年目)に電気科同窓会に参加させて戴き有り難うございました。顔見知りの方々も数多く・懐かしく楽しい一時を過ごさせて戴きました。運悪く台風による大雨は厳しい条件でしたが、良い思い出になりました。なおご厚意で戴いた記念写真は誠に嬉しく貴重な証拠物件でもありますし、アルバムの 1 ページに残ります。又次回の同窓会にも参加させて戴けるよう希望が膨らみますが、前回の席上でもお話致しましたような体調(歩行不順)故に、どのようになりますやら・・・前向きに考える事が必要ですね!

私の社会人としての全人生(40 年余)をかけた中央大学を去るにあたって・・・老兵は死なず、只 消え去るのみ・・・などと格好のいい事(?)を言って、消えた積りでしたが、この 10 年間の母校の発展と現社会の驚く程の変動ぶりには目を見張らざるを得ず、箱根山麓の仙人も、つい現世の魅力に負けて同窓会会場に迷い出たという次第でありました。それも会場入り口近く迄・・・家内と娘に付き添われてと・・・自由に空も飛べない仙人では情けない限りであります(空どころか、杖無しでは 10 分と歩けず、屋外には自家用車でスーパー迄往復する位、従って電車での遠出も殆どありません)。今年 8 月に「喜寿」と言う年齢以上にダウンです。

愚痴はともかくとして沢山のお仲間にお会い出来たのは本当にいい事でした! 昔の同僚であった「猪狩先生」「深井先生」そして現役の「築山先生」「羽鳥先生」方の他に電気科の一期生の先輩方、同期の友人、そして又、今現在各界に頑張っておられる同窓の諸兄にお会い出来たわけです。まさしく、一時のタイムスリップを経験したような夢物語でした。

現在の神奈川県足柄上郡大井町は以前の住まいの東京中央区人形町そして勤務先の文京区春日と比べると全くのド田舎ですが、100m 位からは小田原市でありまして、最近是小田原駅を中心にかなり発展し、大きなスーパーも数多く出店し、家電製品は「秋葉」に劣らぬ位です。熱海・箱根・伊豆への入口だけと言ったイメージは随分と変わりつつあり、まあ住み良い所と言えるでしょう。

東京都心は遥か彼方と遠く、更に「私の足の弱さ」を付け加えれば、「空を飛べない仙人」の積りで余生を送っていると行った所です。

こんな乱文で大変恐縮ですが、「お久し振り」と言った近況報告を終わります。同窓の諸兄皆様の益々のご健勝を 100Km 程の遠くからお祈りしている次第です。

草々

小林先生からの本投稿文は、本来、昨秋発行の会誌に掲載しなければならなかったのですが、事務局の手違いで本号に掲載することになってしまいました。

小林先生をはじめ会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

(事務局)



中央大学の思い出

中央大学元教授 羽鳥光俊

昨年の9月、満70歳の誕生日を迎え、今年3月末日に、定年退職いたしました。

2004年4月から5年間、中央大学、電気電子情報通信工学科で教鞭をとらせていただきました。

「情報通信伝送」、「信号処理」、「情報通信ネットワーク」、「通信機器」、「情報通信・放送特論第一」、「同第二」、「情報通信・放送の政策研究」という講義等を担当させていただきました。通信工学・放送工学の研究、卒業論文研究の指導、大学院学生の研究指導もさせていただきました。大学院の主任、学科の主任もつとめさせていただきました。

そのかわら、総務省電波監理審議会会長、総務省の研究・開発の予算執行の評価委員会座長、資源エネルギー庁の省エネ・トップランナの委員会委員、データ通信協会の電気通信主任技術者試験の委員会委員長、情報通信技術委員会(TTC)会長、YRP(ヨコスカリサーチパーク)研究開発推進協会名誉会長、IEC TC86(ファ

イバオプティク)国内委員会委員長、同TC108(電気安全)国内委員会委員長等をつとめさせていただきました。

近年の通信工学・放送工学の進歩にはめざましいものがあります。

光ファイバの高速・広帯域、低減衰等の長所により、メタルケーブルに代わって光ファイバケーブルが主役になりつつあります。長距離基幹回線で早くから実用化された光ファイバは、加入者系でも、近年、主役となりつつあります。FTTH(Fiber to the Home)です。日本に於けるFTTHの普及は世界第1位です。ブロードバンドインターネット、光IP電話に活用されていますが、IPTV(IP Television)、ビデオオンデマンドでの活用等、新しいサービスが追求されています。

交換機を用いる電話ネットワーク・データ通信ネットワークから、ルータ、サーバを用いるインターネット・IPネットワークに急速に移行しています。集中制御でなく分散制御を可能と

する、閉ざされたネットワークでなく開かれたネットワークであるインターネットは、結果的にベストエフォートネットワークでした。

インターネットメールやウェブにとって、ベストエフォートネットワークで殆ど十分でした。

しかし、IP 電話やストリーミング型映像通信サービスにとって、帯域保証ができないこと、ネットワークセキュリティの不足は、不満なものでした。SIP (Session Initiation Protocol) を追加し、帯域保証、ネットワークセキュリティの向上を実現する IP ネットワーク、NGN (Next Generation Network) が標準化・実用化されました。FMC (Fix Mobile Convergence) (固定網と移動網の一体化) も NGN で実現されました。

NGN でセキュリティが大きく向上しましたが、完全ではありません。サーバや PC 端末機器に対するハッキング、ウィルスやワームに対するさらなるセキュリティ向上が追求されません。

ルータやサーバの設定・管理をプロバイダやデータセンタ事業者にアウトソーシングせず、ユーザが行うことが可能です。一般の企業や組織、個人ユーザには、安定かつセキュリティの高いアウトソーシングが薦められますが、大学

においては、学生の教育、研究テーマの発見、実験のため、安定さ、セキュリティを犠牲にしてもアウトソーシングしないという選択をすべきか悩むところです。小生の研究室のルータ、サーバの設定・管理は、アウトソーシングしませんでした。電気電子情報通信工学科のルータ、サーバの設定・管理もアウトソーシングされていません。他大学には、アウトソーシングしている所がかなりあります。

携帯電話の普及にはめざましいものがあります。携帯電話の加入者数が固定電話の加入者数を超えていることは御承知のことと思います。i モード、メール、インターネット、着メロ、オサイフ携帯等の非電話系サービスによる収入増を狙うビジネス戦略が採用されています。新サービスに対応する携帯端末の開発競争が活発に行われ、我が国の携帯電話端末の高機能化は、世界的に突出したものがあります。

免許のいらぬ WiFi 無線 LAN に加えて、広帯域無線アクセスシステム (BWA (Broadband Wireless Access)) として、WiMAX、次世代 PHS の 2 つの方式による通信事業が開始されています。これは免許を与えられ、保護されて行う通信事業です。BWA の免許にあたっては、MVNO (Mobile Virtual Network Operator) (ハードを持たない通信サ

ービス事業者) が推奨されています。

BS デジタル放送、地上デジタル放送の普及が順調に進展しています。2011年7月24日にアナログ放送の停波が予定されて居ります。地上デジタル放送の放送区域のカバー、難視解消に力が入れられています。

地上デジタル放送の送信電力を数dB余裕を持たせて運用しておき、アナログ放送の停波にあわせて、その数dBの余裕を一斉に増力するという政策もあったかも知れないと反省するところがあります。

アナログ停波以降のVHFの周波数のマルチ

メディア放送等への利用、53チャンネル以上のUHF周波数の移動通信、ITS等への利用、BSアナログ放送が使っている周波数のBSデジタル放送への利用の準備が活発に行われています。

ブラジルとペルーが日本と同じ地上デジタル放送方式(符号化パラメータに異なるところがあるがファームウェアで対処可能)を採用してくれました。他の南米諸国、フィリピン等に、日本と同じ方式の採用の働き掛けが行われています。

略歴:

1938年生

1963年東大電気卒

1968年東大大学院工学系研究科修了、工博、東大工学部講師

1969年同助教授

1986年東大教授

1999年東大名誉教授、年国立情報学研究所教授、同名誉教授

2004年中央大学教授

2009年3月退職

電子情報通信学会会長、映像情報通信学会会長、情報通信技術審議会委員、電波監理審議会会長を歴任。

電子情報通信学会名誉会員、映像情報通信学会名誉会員、IEEE ライフフェロー。



「NICT における研究の近況について」

平成 5 年度学部卒・平成 7 年度修士了 関口 秀紀

日頃より、同窓会には大変お世話になり感謝いたしております。今回、同窓会から会誌原稿の執筆の依頼がありましたので、私の最近の研究テーマと活動についての概要を紹介させていただきます。

始めに、簡単に自己紹介いたします。私は、1996 年 3 月に白井教授の研究室の博士前期課程を修了し、その後、7 年間、本学科の教育技術員として勤務しておりました。この期間に白井教授から学位取得のチャンスを頂き、2003 年度に博士後期課程に入学し学位を取得しました。2004 年度は、本大学の 21 世紀 COE プログラム「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」のポスト・ドクターを務め、2005 年度から現在に至るまで独立行政法人情報通信研究機構(NICT)に任期付き研究員として勤務しております。

学位取得後、私は「電磁現象に起因する情報セキュリティ」に関する研究を行っております。本研究は、大別すると、情報通信機器から放出する電磁雑音に起因する情報漏洩問題への対処と、情報通信機器への意図的電磁妨害に起因する誤動作・故障問題への対処の 2 つのテーマ

があります。

情報通信機器から放出する電磁雑音に起因する情報漏洩問題としては、例えば、PC (personal computer)のモニタ表示画面情報やキーボードのタッピングキー情報等が、各々の機器から放出する電磁雑音(一般的な EMC 規制レベル以下)を受信しその信号を解析することにより再現できる場合があります。モニタ表示画像内の文字情報やキーボードタッピングキー情報が漏洩する可能性が危惧されています。この電磁雑音に起因する情報漏洩を防止対策する技術は、広くは TEMPEST (テンペスト)として知られており、古くは欧米において軍事・諜報活動の一部として研究されてきました。しかし、近年の情報化社会の発展に伴う情報の価値の重要性の高まりから、民間においても TEMPEST に関する研究が注目され始めています。

情報通信機器への意図的電磁妨害に起因する誤動作・故障問題は、情報通信機器が高電力電磁環境に曝された場合に誤動作・故障を生じる場合があることから、国際的にサーバや情報通信インフラに対

する意図的な高電力電磁妨害が懸念されています。このため、この意図的電磁妨害 (IEMI : Intentional Electromagnetic Interference) に対処し情報通信機器を防護する目的で様々な研究が行われています。具体的には、現時点で技術的に生成可能な高電力電磁環境の調査や情報通信機器にとって脅威となる高電力電磁環境の種類 (波形等) とレベルの調査、また IEMI に対する防護対策技術の研究開発が行なわれています。これらの研究は、欧米においては従来から軍事技術の一環として研究が行われていました。しかし、近年の科学技術の発達により小型で高出力な電磁信号の出力システム (通信装置等) が容易に製作できるようになり、また、情報通信が社会経済活動において重要な役割を果すようになってきたことから、IEMI に対する脅威への対処に関する研究が注目されています。

これらの研究は、情報化社会の発展と共に民間においても重要視され始めており、情報セキュリティの国際的運用制度となる情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS : information security management system) (例えば、ISO (International Organization for Standardization : 国際標準化機構) / IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) 27000 シリーズや ITU-T (International Telecommunication Union - Telecommunication standardization : 国

際電気通信連合 電気通信標準化部門) X.1051) では、企業や組織に対してこれら電磁環境に起因する情報セキュリティに対処することを求めています。これに伴い、現在、IEC TC77 (Technical Committee 77) SC77C (Sub-Committee 77C)では、「高電磁界過渡現象 (High Power Transient Phenomena)」についての検討が行われています。また、ITU-T SG5 (Study Group 5)では、課題 15 として「電磁現象に関する情報通信システムのセキュリティ (Security of telecommunication and information systems regarding the electromagnetic environment) についての検討が行われており、私もアソシエイト・ラポータとして各規格・勧告案策定の審議に参加しております。

以上、簡単ではありますが、私の最近の研究テーマと活動についての概要を紹介させていただきました。

最近は出張や論文締め切り等に追われ同窓会にも参加できておりませんが、また同窓会にて皆さまとお話をする機会を得ていろいろと勉強をさせて頂ければ幸いです。

最後に、本年1月に逝去されました高窪統教授のご冥福を心よりお祈りいたします。



私の近況

平成12年卒 笈川 泉 (旧姓：武藤)



「近況について」というテーマで、同窓会誌への原稿執筆依頼が届きました。良い機会をいただいたので、最近どんなことあったかな〜とマインドマップを書いてみました。(マインドマップとは、トニーブザンが提唱した図解表現技法のひとつ。)マインドマップの大半を占めた、妊娠・出産について書いてみたいと思います。

妊娠が発覚したとき嬉しい反面、正直とても戸惑いました。年齢的には31歳ですが、気分的には少し早い気がしたからです。また、「親になる」というイメージもわいてきませんでした。シゴトは？自分の時間は？トツキトオカどうすごす？出産って痛いんじゃない？・・・などなど漠然とした不安に襲われました。そこで、不安に思っていることを言語化し、整理し、自分でできる事は片っ端から潰していきました。

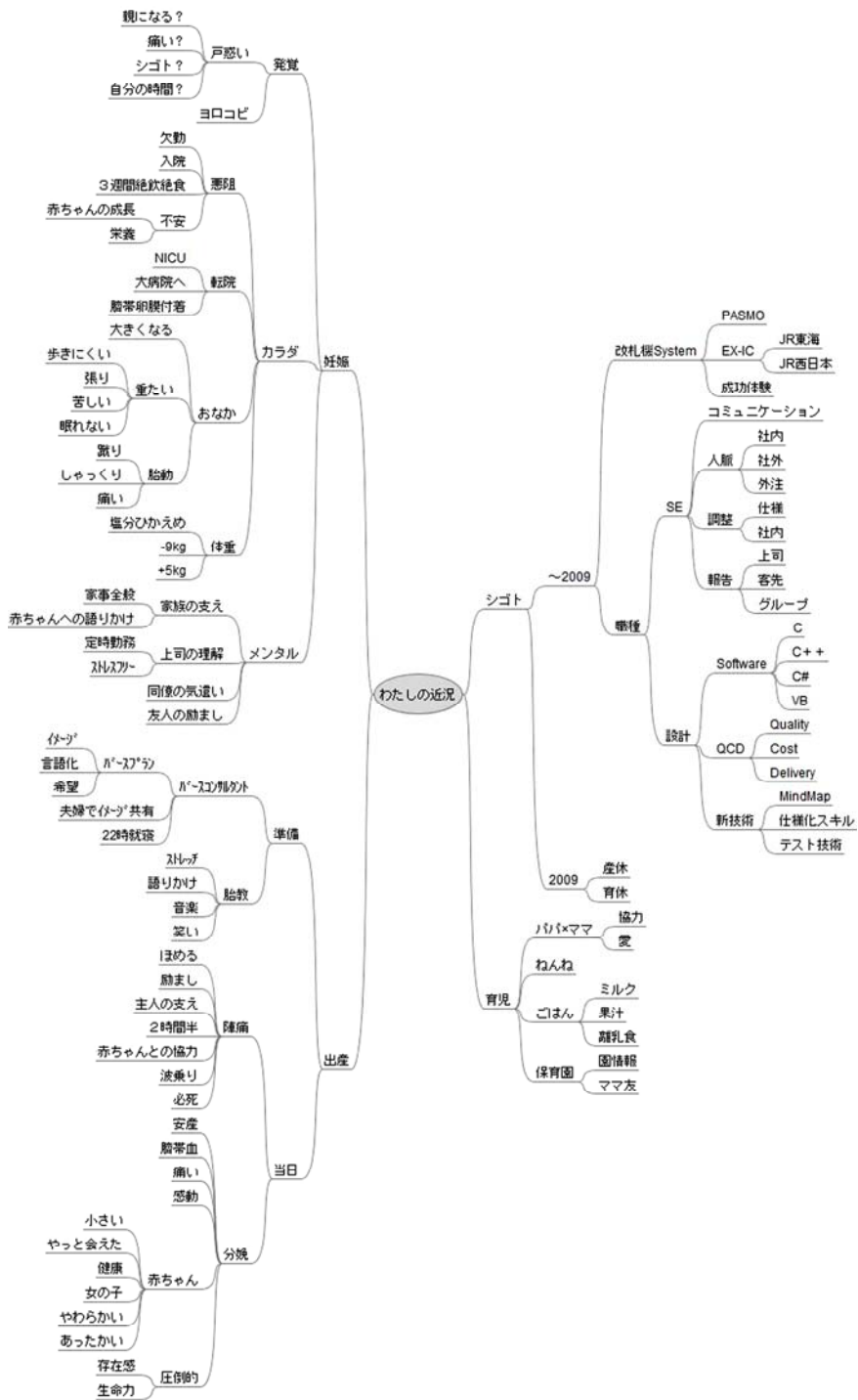
まず、赤ちゃんの視点からのお産を考えてみたことで大きな気持の変化が起きました。それまでは、ツライ、痛い、苦しいなど自分のことばかり考えていました。赤ちゃんはたった一人でパパとママを選んでやってくるんです。受け入れてもらえるかな？愛してもらえるかな？期待に応えられるかな？赤ちゃんも不安でいっぱい。パパとママの会話をお腹でじ〜と聞いています。一瞬の心のうつろいを肌で感じています。心地よい羊水から出てくるのは勇気があるんです。つわりがひどく、3週間の入院。絶飲絶食が続きママの体重が9キロも減ってしまったときでも、赤ちゃんは、あんなにも小さなカラダで一瞬懸命成長し、生きようと頑張ってくれました。胎盤ができたなら臍帯付着箇所に

問題があり即転院させられ落ち込んでいたけれど、そんな臍の緒でも赤ちゃんは、大きく成長してくれました。

次に、バースプランを作成しました。不安要素の大半は、知識のなさからくるものでした。そこでアメリカの助産師向け読本を読み、具体的なお産のイメージを持ちました。自分でできる事、できない事。お産でやりたい事、やりたくない事。そのすべてをバースプランに落とし込み、お産に係わるすべての人と共有しました。もちろん赤ちゃんにも毎日語りかけました。

その成果？病院に着いてから2時間半、全体で8時間という超安産で(初産婦平均16時間)、健康で元気な赤ちゃんと感動の対面をすることができました。

決して平坦ではないトツキトオカだったからこそ、いままで感じたことのない圧倒的な感動と喜びでした。会いたくて会いたくてやっと会えた我が娘。健康で産まれてきてくれてありがとう。これからは、家族3人4脚。チカラをあわせ、歩調をあわせながら私たちのペースで頑張っていきたいと思います。



同窓会新会員のご紹介

★ 平成21年3月 学部卒業・大学院修了

研究室	人数	新会員のお名前 (敬称略)
稲葉研		
今井研		
木下研		
國井研		
小林研		
篠田研		
庄司研		
白井研		
杉本研	2	*川端千尋、*水谷慶一郎
高窪研		
築山研	2	藤森智幸、*渡邊啓介
羽鳥研	1	中島 健
二本研		
山村研	1	*西川智之
合計	6	*印：大学院修了者

★ 平成21年4月新入生 永田章浩さん

会誌発行业務費の集計報告（その8）

会誌45号発行以降に皆様から寄せられました「会誌発行业務費」について、集計結果とご協力頂きました方々のご芳名と漏れていた方々のお名前を報告いたします。

● 会誌発行业務費集計報告（2009年3月31日現在）

申込総口数：420.8口

申込総人数：312人

申込金額計：2,144,000円

収入金額計：2,223,800円（振込手数料20,200円差し引き後）

● 会誌発行业務費納付者ご芳名

岡崎 靖生 殿 昆 一哉 殿 小澤 典夫 殿 沖山 明 殿 須藤 一男 殿
高松 睦夫 殿 土屋 憲司 殿

● 会誌発行业務費・終身会費の納付先口座のご案内

引き続き、昭和年代に学部を卒業された方は

会誌発行业務費：1口 5,000円 1口以上何口でも、

平成年代に学部を卒業された方は「終身会費（1万円）」の受付を行っておりますので、同窓で未納或いは未入会の方がおられましたらご協力お願いの声をかけて頂き、下記の口座をご紹介下さるようお願いいたします。

また、既に一度「会誌発行业務費」をご納付された方も再度のご協力を頂ければ幸いです。

【 郵便振替口座 】

口座番号：00130-7-752276

加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

通 信 欄：住所・氏名・学部卒業年および「会誌発行业務費」か「終身会費」の
いずれかの納付であることを必ずご記入下さい。

会計報告

平成19年度会計報告

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

本会計報告は、平成20年11月1日に開催された平成20年度総会にて承認されました。

収入の部

前年度よりの繰越金	2,500,992円
平成19年度総会会費	322,000円
預貯金利息	2,746円
雑収入	18,060円
終身会費	210,000円
寄付金	30,500円
会誌発行事業費寄附	75,000円
協賛金(修論発表会等)	110,000円
山口先生ご遺族様寄附	200,000円
計	3,469,298円

支出の部

平成19年度総会費	332,530円
通信及び印刷費	491,940円
事務・運営費	24,052円
名簿関係事務費	30,000円
慶弔費	0円
修論発表会優秀賞	67,900円
次年度繰越金	2,522,876円
計	3,469,298円

上記、平成19年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成20年5月14日

築山修治 ㊞

平成20年度会計報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

本会計報告は、平成21年11月7日開催予定の平成21年度総会で承認を諮る予定です。

収入の部

前年度よりの繰越金	2,522,876円
平成20年度総会会費	378,000円
預貯金利息	2,143円
雑収入	1,000円
終身会費	70,000円
寄付金	23,000円
会誌発行事業費寄附	50,000円
協賛金(修論発表会等)	60,000円
(アイコンテクノ(株)様、菱沼技術士事務所様)	
計	3,107,019円

支出の部

平成20年度総会費	341,793円
通信及び印刷費	367,140円
事務・運営費	183,052円
名簿関係事務費	30,000円
慶弔費	0円
修論同窓会賞副賞	58,200円
高窪先生お子様奨励会寄附	30,000円
次年度繰越金	2,096,834円
計	3,107,019円

上記、平成20年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成21年6月3日

築山修治 ㊞



同窓会財務委員会より

財務委員長：昭和57年卒 辻 正 吾

―財務委員会の発足―

財務委員会は中大電気同窓会の運営が継続発展するための収支改善施策を企画する委員会です。

- ・ 運営費用予算化
- ・ 収入源企画、実施
- ・ HP 賛助金策定
- ・ 修士論文同窓会賞賛助金策定
- ・ 会誌発行事業費回収促進
- ・ 新会員入会促進
- ・ 臨時収入企画、実施

従来、本同窓会運営の基礎となるのは会員の会費であり、そのためには会員であることの意義を明確に訴求し、その意義を在学生をはじめとしてOB諸氏にアピールすることにより理解をいただかねばなりません。

―同窓会の意義―

学生時代の大きな資産の一つは同窓生です。さらに同窓会は同窓生の世代を越えた資産です。その資産を活かすにはお互いのギブアンドテイクの発想と理解が不可欠と思います。

―OBと在学生の接点を提供―

このたび、同窓会では在学生へも同窓会入会の機会を広げ、OBとの接点や同窓会の意義のご理解を促進する活動をはじめています。また情報交流、人的交流を促進するためにホームページを通じて情報と交流機会を提供して参ります。

―同窓会運営のご理解とご協力をお願い―

OBの皆様には在学生との接点をご提供するとともに同窓会の運営にもご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

―今後の展望―

起業を目指す学生とベンチャーOBの出会い。ビジネスチャンスの交流。ジョイントビジネスのきっかけ。さまざまな交流を企画提供して参ります。

また、プライベートの楽しみや趣味の交流など、学生にもOBにも視野を広げ、経験を共有し、誇りと実りある人生であるように活動を心がけて参ります。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会

新ホームページのご案内

昭和 42 年卒

ホームページ運営委員会 委員長 **秋田 隆史**

従来の同窓会ホームページは中央大学電気科のサーバーを拝借して、前天野会長が立上げられ、今まで前会長の個人的尽力で運営されてきました。昨年、菱沼会長が就任され「独自に同窓会で独自にサーバーを立て、組織的に運営し従来以上に同窓会のコミュニケーションの輪を広げよう」との提案を幹事会で検討してリニューアル実施に至りました。

ホームページに下記を追加しました。

1. 同期会、各研究室の連絡拠点の設置
2. 起業した同窓生のPR拠点の設置
3. 活躍する会員のPR拠点
4. 関連企業への広告媒体の提供
5. 後楽園横丁（キャンパス周辺散策、イベント、商店街の案内などを掲載）

同窓会新ホームページのURL <http://www.elect-chuo.com>

リニューアルホームページに掲示板「コミュニティ」「ビジネスリンク」があり会員が情報を閲覧・投稿できます。

・ホームページ内の掲示板

コミュニティ	研究室ネット	(研究室掲示板)
	同期生ネット	(同期生掲示板)
	同窓会ネット	(同窓会掲示板)
ビジネスリンク	アントレプレナ	(学生起業掲示板)
	テクノマート	(ライセンス交流掲示板)
	ビジネスマッチング	(ギブ&テイク掲示板)
	ビジネスコミュニティ	(ビジネス交流掲示板)

・IDとパスワード

ホームページ内の掲示板の閲覧、投稿にはID（ユーザ名）とPW（パスワード）が必要となります。

ID（ユーザ名）：

PW：

IDとPWは会員のみにご案内します。掲示板の閲覧・投稿は会員に限ります会員になるためには、下記の条件が必要です。

- ①昭和年代卒業生：会誌発行事業費の納付
- ②平成年代卒業生：終身会費の納付

本会誌のほか、ホームページ内「事務局への連絡」への申請でもご案内いたします
その際、ご本人の会員確認後のご通知となります。

ID、PWが会員外に漏れると掲示板の閲覧が可能となり、さらにユーザ登録と投稿が可能となりますので漏洩に御注意ください。

掲示板への投稿はユーザ登録をして認証後に可能となります。

ユーザ登録はIDとPWにて掲示板にログイン後の登録となりますが、自動認証により会員外でもIDとPWを入手すれば投稿が可能となります。

新規登録者が投稿した場合、掲示板管理者へ投稿通知が自動メール配信されますので
掲示板管理者は投稿者が会員であることを確認して認証を継続するか、認証を抹消するかを判断いたします。

同窓生皆様へのスポンサーご協力御願い

企業広報にご利用ください。同窓会の活動と運営にもご協力お願いいたします。

ホームページ内 ビジネスリンク スポンサー

- ・修士論文同窓会賞のスポンサ 協賛金 3万円
- ・バナー広告掲載費 1万円／年

修士論文発表会同窓会賞

平成 21 年 2 月 21 日に開催された「2008 年度修士論文発表会」において、同窓会会員により構成された審査員が厳正なる審査を行った結果、下記の方々に「同窓会賞」を贈呈することに決定致しました。

本年度の修士論文発表は、従来に比べ研究内容やプレゼンテーションのレベルが向上しており「同窓会賞」の選定には審査員の間で活発な議論が交わされ、決定までに時間が費やされ嬉しい悲鳴をあげました。

表彰並びに副賞の贈呈は、3 月 24 日 (火) に開催された修了式・卒業式の席上にて行われました。

《優秀賞》

浅沼 岳 君 (稲葉研究室)

テーマ：超電導体の内部電流密度及び自己磁界分布の解明

金崎 昭夫 君 (白井研究室)

テーマ：ミリ波帯電波照射による体温上昇の理論解析

田村 直人 君 (高窪研究室)

テーマ：MOSFET のサブスレッショルド特性を利用した低電圧低消費電力で動作する CMOS スマート温度センサに関する研究

結城 知彦 君 (國井研究室)

テーマ：免疫ネットワークを用いた車両協調システムにおけるマイクロ・マクロ両視点からの評価および車両群制御に関する研究

《アイコンテクノ賞》 (URL : <http://www.aikon.co.jp/>)

西川 智之 君 (山村研究室)

テーマ：SPICE 指向型ホモトピー法を用いた非線形回路の解析

《菱沼技術士事務所賞》 (URL : <http://www.e-hishi.com/>)

川路 宗矩 君 (庄司研究室)

テーマ：常温接合を用いた擬似位相整合波長変換デバイスの作製

中大電気同窓会 役員・常任幹事

(任期：平成20年11月1日～平成22年総会開催日)

平成20年総会にて選出された役員および常任幹事の皆様を紹介いたします。

会 長	菱 沼 一 夫	(昭和 39 年卒)	新任
副 会 長	田 口 昭 夫	(昭和 41 年卒)	再任
〃	秋 田 隆 史	(昭和 42 年卒)	再任
〃	飯 塚 信 市	(昭和 47 年卒)	新任
〃	菅 原 正 人	(昭和 47 年卒)	再任
〃	辻 正 吾	(昭和 57 年卒)	新任
事務局長	天 野 浩 志	(昭和 39 年卒)	新任
監 事	築 山 修 治	(本学科 教授)	再任
〃	黒 崎 勝 吉	(昭和 29 年卒)	再任
顧 問	吉 江 實 成 彦	(昭和 28 年卒)	再任
〃	堀 中 武 和	(昭和 31 年卒)	再任
〃	青 木 義 雄	(昭和 32 年卒)	再任
〃	市 川 友 之	(昭和 33 年卒)	新任
常任幹事	田 伏 良 雄	(昭和 35 年卒)	再任
〃	福 島 弘	(昭和 40 年卒)	新任
〃	門 原 健 男	(昭和 40 年卒)	再任
〃	山 口 功	(昭和 40 年卒)	再任
〃	柳 下 敏 男	(昭和 41 年卒)	新任
〃	渡 辺 聰	(昭和 41 年卒)	新任
〃	志 村 公 夫	(昭和 42 年卒)	再任
〃	関 口 英 昭	(昭和 42 年卒)	新任
〃	岩 瀬 暢 男	(昭和 43 年卒)	再任
〃	田 中 晴 雄	(昭和 44 年卒)	再任
〃	亀 田 俊 夫	(昭和 45 年卒)	再任
〃	長 沼 保 広	(昭和 57 年卒)	再任
〃	高 橋 信 一 郎	(昭和 62 年卒)	再任
〃	細 田 浩 希	(昭和 63 年卒)	再任
〃	宮 崎 真 由 美	(平成 4 年卒)	再任
〃	國 井 康 晴	(平成 4 年卒)	再任
〃	関 口 秀 紀	(平成 6 年卒)	再任
〃	笈 川 泉	(平成 12 年卒)	再任
〃	櫻 井 宏 樹	(平成 14 年卒)	再任

会員からのお便り

(平成20年度返信葉書の近況・コメント欄からの転載、都道府県は現住所)

常温で固体の油脂は人体に有害といわれていますので、マーガリン、ショートニングを含んだパンは避け、調理用の油としてはもっぱらエキストラ・バージン型のオリーブオイルを使っております。

(元教授 千葉県 猪狩 武尚)

同窓会のご案内、有り難う存じました。今春、大類浩先生を失って、初期の電気工学科(旧称)の一時代は終わったとの思いが致します。先生のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、今、新しい時代を突き進む電気電子情報通信工学科の益々の発展を祈念して止みません。

(元専任講師 東京都 深井 昌)

老老介護の対象者(母100歳)が亡くなって、只今自分自身の自自(爺)介護中です。と言って寝ている訳ではなく、至って元気で出歩いており、目下福祉介護機器・用品の改良等に関心多々あり研究中です。

(昭和28年卒 埼玉県 竹中 四朗)

毎々お世話さまです。後期高齢者の仲間として何とか暮らしています。最近は体調にガタが来ています。

(昭和28年卒 東京都 吉江 實成彦)

体調改善中。

(昭和29年卒 東京都 黒崎 勝吉)

同窓会誌の御送付ありがとうございます。会誌により大類先生のご逝去の報に接し、心より哀悼の意を表します。

(昭和29年卒 山形県 清野 剛)

大類先生のご冥福をお祈りいたします。先生には卒業間際にいろいろとお世話になりました。31年卒(当時2部)12名の生き残りです。毎年同窓会を開いています。電気同窓会と事務局の発展を祈ります。

(昭和31年卒 神奈川県 村島 清)

第5期生の昭和32年卒も卒後50周年を既に過ぎました。総会に出席すれば同期生に会えると思ひ乍ら来ております。五輪精神の「参加するに意義有り」を実行していきます。

(昭和32年卒 大阪府 内田 信)

才相応の生活をしています。

(昭和33年卒 埼玉県 中村 功)

今年は10周年に相当する良いハプニングがありました。2007年に於ける輸出貢献企業としてフィリピン特別経済区に進出した154社中2社が選ばれましたが、その内の1つを当社が受賞しました。金も無い、人材も不足の中での受賞なので何か記念になる事と思ひ毎月会社からお米を支給する事としました。これが以外に費用のかかる事です。好評なので業績好調の間は続けたいと思ひています。不景気の余波か?失業者が増えつつあるフィリピンです。依って、不穏な事故も多くこれからXmasも近くなるので心配です。

(昭和34年卒 神奈川県 佐々木 裕)

幹事の方、お世話になります。次回には是非出席したいと思ひます。皆様によろしく。

(昭和34年卒 埼玉県 関 光夫)

大類先生の訃報、過渡現象論の講義が思い出されます。総会・懇親会は南アフリカを旅行中で欠席させていただきます。来年（平成21年）5月に有楽町で絵の個展を予定しており、初めての個展ゆえ新たな準備が多々あり気持ちに追われています。毎年開催出来るよう情熱を燃やし続ける所存です。

（昭和34年卒 東京都 塚原 達雄）

同窓会も会長はじめ各幹事の御努力で非常にうまくいっていること、敬意を表します。私こと郷里福山へもどり5年半すっかり田舎者になり今は福山老人大学に入り諸分野の勉強をしています。今年の学生祭は11月1日、2日で委員をしているため、はずすことができず欠席します。20年度同窓会の成功をお祈りします。

（昭和35年卒 広島県 重政 弘康）

同窓会の季節となりましたが、他と重なり申し訳ありませんが欠席です。私は現在家業の江戸時代から続くバイオの仕事をやっておりますが、此の頃スローフードが話題を呼んでいます。フードアナリストとしては嬉しい限りです。同窓会諸氏は国産大豆は国内消費量の5%しかない事を御存知ですか？円高は大賛成です。電気工学とは関係ないみたいですが、10年後必ず食糧難となります。処で前回出の玉春日関は引退です。福岡場所で再会を楽しみにしていましたが残念です。皆様お元気で！

（昭和35年卒 福岡県 新開 盛治）

近年、電気同窓会誌が頼もしくなってきました。特に大学情報、近況報告、修士論文発表会記事、会員からのお便り等意義深くなってきました。2009年度は同窓会の体制、

運営の更なる進化があり期待が持てます。素粒子理論に貢献された3氏がノーベル物理学賞を受賞されました。刺激を受けて中大電気のアカデミックな進展と修士論文研究の更なる拡大を期待します。

（昭和35年卒 埼玉県 田伏 良雄）

2008年に大河ドラマ、薩摩が生んだ幕末の才女天璋院篤姫ゆかりの世界に誘われて素敵な薩摩を散策して来た。篤姫の愛した桜島を桜島フェリーから各方面から眺めることが出来た。篤姫を重ねて見た桜島は一段と美しく見えた。宮尾登美子の小説も家系図を見ながら、書きながら、二度三度と読んでいる。

（昭和35年卒 千葉県 村井 康男）

長女夫妻と同居、孫も含めて6人家族、毎日スポーツクラブにかよい、エアロビクス、スカッシュ、ゴルフ、社交ダンス等、スポーツ漬けの毎日を送っています。同期生とは年2回飲み会をもよおしています。

（昭和37年卒 神奈川県 江波戸 勝樹）

千葉県生涯大学校で陶芸をやっています。あとは子供を指導しながら囲碁三昧の毎日を元気に過ごして居ります。11/1は地元の行事があり欠席します。

（昭和37年卒 千葉県 米倉 孝栄）

出席できなくて恐縮しています。弁護士・弁理士に特化した人材コンサルタント事業を行いながら健康を考えてテニスを月に数回、コートを走り回っています。3年前よりパラグライダーをはじめましたが、着陸に失敗して足を痛めて今は休んでいます。皆様のご健康をお祈り致します。

（昭和38年卒 福岡県 月俣 憲昭）

今年の1月末にヨッパラって自宅マンションの階段で足をスベラセ手スリに左顔面を強打、左眼眼窩底骨折、上下眼瞼の高度挫滅涙小管断裂・・・東京女子医大に入院、8日間入院、現在は良くなっています。初めて入院しました。

相変わらず妻の介護でノンビリと毎日がスギサッテおります。会社を退職してから5年、介護を始めて8年になります。今のところ元気です。

(昭和38年卒 東京都 五本 武)

磯釣り、ゴルフ、クラリネット、自治会活動、筋トレ等の毎日です。このまま続けるのも悪くはないのですが、インセンティブを自分自身に付与するべく数値等の目標を設定しました。

各々、70歳まで60cmのメジナ、シングルハンディー、来年に自作自演のCD作成、来年のコミュニティーの運動会(15自治会)で3連覇としました。皆様の応援よろしく。

(昭和38年卒 栃木県 山本 立夫)

本年7月より、悠々自適の生活ですが、自宅家庭菜園での野菜づくり、ゴルフ、三味線など健康なうちにいろいろ楽しみながら生活しています。中大もやっと野球が一部に戻り、マラソンなど同窓生として活躍を楽しみにしています。

電気科の益々の発展を祈念しています。

(昭和39年卒 埼玉県 齊藤 榮喜)

東京電力(株)及びその子会社(2社)を卒業して早や3年半、縁あって(財)東京都新都市建設公社で建設発生土の再利用プラントの主任技術者をしています。これから4年かけてプラントの設備更新を予定している傍ら、この8月から八王子駅南口地区市街地再

開発組合の主任技術者を兼務し、22年オープンを目指して地上160mの超高層駅ビル建設に挑戦です。

(昭和41年卒 東京都 田口 昭夫)

今年(平成20年)12月で退職して6年、66歳になります。相変わらず、5時起床、谷津干潟公園での6時30分からのNHKラジオ体操、月火水は囲碁クラブ、土曜は習志野カレッジへ通学(今春より入学、2年間)、家族の介護、ボランティア等、元気でやっています。

同窓会、同期会の方へ手が廻らなくなり申し訳なく思っています。

(昭和41年卒 千葉県 富田 紘志)

総会開催幹事の皆様御苦勞様です。本年の総会・懇親会には出席させていただきます。よろしくお祈りします。

65歳の人生で初めて入院(泌尿器科)し、麻酔、内視鏡手術を体験しました。一週間で退院でき子会社にて現役続行中です。総会終了後同期会において皆様にお会い出来る事楽しみにしております。

(昭和41年卒 広島県 橋本 正樹)

今年は情報処理技術者とネットワーク技術者試験にチャレンジしています。休日は男声合唱団と農業を楽しんでおります。

(昭和42年卒 千葉県 秋田 隆史)

学校の同窓会、会社のOB会、旅行会、趣味の切手会、ふるさと会等、毎日、多忙な行事に追われています。中大同窓会には毎年出席していますが、同級会も仲間4人(一昨年1名他界する)で古きを思い出しながら楽しんでいます。

(昭和43年卒 千葉県 中村 雅喜)

退職して半年経過しました。現在は毎日を
気儘に過ごしています。同窓会には同期のメ
ンバーも集まる事と楽しみにしています。

(昭和 44 年卒 埼玉県 古澤 洋水)

会報が来ますと、勉学に励んでいた？若い
時の自分をなつかしく思います。大類先生が
亡くなられたとのお知らせ、とてもカリスマ
性のあった先生でしたので、残念です。ご冥
福をお祈りします。同窓会の盛会をお祈り致
します。

(昭和 45 年卒 東京都 重富 朝暉)

大類先生の訃報に接し残念の極みです。大
類先生は大変ユニークな先生で、回路理論の
講義では後ろの席で眠っている学生が居ると
起し、親身になって指導をして頂きました。
その当時から卒論は大類先生と決めており、
院に進んでからも先生の指導を受けることが
できました。大学での厳しい指導に対し、先
生のお宅に伺った時の柔和なお顔が思い出さ
れます。大類先生有り難う御座いました。

(昭和 45 年卒 東京都 保坂 早苗)

私は 8 月に心臓を一度止めて弁の手術を受
けました。ちょうど還暦の誕生日は、ベッド
の上で迎えました。これから新しい人生を始
めます。(昭和 47 年卒 千葉県 菅原 正人)

毎回ご案内いただき、誠にありがとうございます。
一度も出席しておりませんが、今回

はと思っていた所、社用にて不可となりました。
次回は都合つけばと思っております。あ
りがとうございます。

(昭和 53 年卒 埼玉県 中野 省作)

カーボンブラシ屋です。そういう年令なの
か、子供の用事で土日までも忙しい毎日、趣
味のアンプ作りは年 1 台のペースがやっとで
す。(昭和 60 年卒 埼玉県 手塚 賢司)

毎年掲載して頂きまして御礼申し上げます。
第 2 子も生まれ、にぎやかな日々を過ごして
おります。宮城県は地震の多い年でした。
中大OBの皆様、健康に留意され共に頑張っ
て参りましょう。

(平成 12 年卒 宮城県 高橋 寛治)

仕事のためおうかがいできません。若者が
減っている同窓会が少し寂しい気がします。
もう一度、活気のある会にして参加したいで
す。(平成 15 年卒 東京都 平林 思問)

今年も沢山のコメントを送って頂き感謝
申し上げます。今後も、今ハマッテいる
こと、同窓の皆様へ伝えたいこと、等々
何でも構いませんので返信葉書に書いて
下さい。是非とも、この欄を有効に活用
して下さい。希望致します。(事務局)

訃報 この 1 年間に訃報に接した方々です。謹んでご冥福をお祈り致します。

高窪 統 教授

鈴木 博さん (昭和 33 年卒)

【編集後記】



会誌発行委員会 委員長：昭和47年卒 飯塚 信市

菱沼会長ご挨拶にもありますように、本年度より、会誌発行委員長として会務を担うこととなりました。天野前会長のご好意に甘え、長らく、なんとなく他人事のように、会誌を眺めておりました。自分が積極的に関与して、はじめて、同窓会の全貌が幾分でも見えて来たように思います。

十数年このかた、同窓会に関与してきたとはいえ、卒業後40年弱も経てば、最早、学科並びに専攻科の教授陣容等、知る由もなく、このたび、今井学科教授並びに稲葉専攻科教授の近況報告に接して、今更ながら、その頼もしい全容を電気同窓生として誇らしく感じました。とはいえ、この大不況下にあつて、学科並びに専攻科共に、卒業生の就職戦線は不透明とのこと。本人ならびに親御さんのことを思えば、誠にお気の毒と言わざるを得ません。卒業生の皆さんの奮闘を心より祈りたいと思います。

同窓会の抱える問題の1つに、20歳代～40歳代を含む若い世代の不参加があります。仕事の多忙、世代間で価値観の共有の難しさ、同窓会活動の周知不足等々、理由は様々でしょう。また、それが自然の流れなのかも知れません。でも、人は、アットホームな場所には群れたがるのも事実だと思います。今後、会誌発行委員長として、私は、同窓会誌（ホームページを含む）を、同窓生にとってアットホームな場所にすべく努力したいと思います。

最後に、それぞれご多忙の中、当方の依頼に快く原稿作成をお引き受けいただいた各位に深く謝意を表すると共に、手取り足取りで、会誌編集のご指導を賜りました天野前会長には、深く感謝を表したいと思います。

中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会 会誌第46号

発行所：中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13番27号

FAX：(03) 3817-1847

URL：<http://www.elect.chuo.com/>

発行日：2009年10月1日

編集人：飯塚 信市

発行人：菱沼 一夫

同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成21年度「同窓会総会」を下記の通り開催します。本年度の総会は、昭和47年卒の皆さんが「開催委員会」を設置し運営を担当いたします。また、総会終了後には「懇親会」を開催いたしますので、多数の会員の皆様にご出席賜りたくご案内申し上げます。

午後3時と早めの終了設定ですので、同期や研究室の仲間と二次会をお楽しみ下さい。

【記】

★総会ならびに懇親会

日 時：平成21年11月7日（土） 12:00 ～ 15:00

会 場：上野 精養軒 竹の間

住 所：東京都台東区上野公園4番58号 電 話：(03) 3821-2181

受 付：午前11時30分 受付開始

会 費：7,000円

総 会：12:00 ～ 12:30

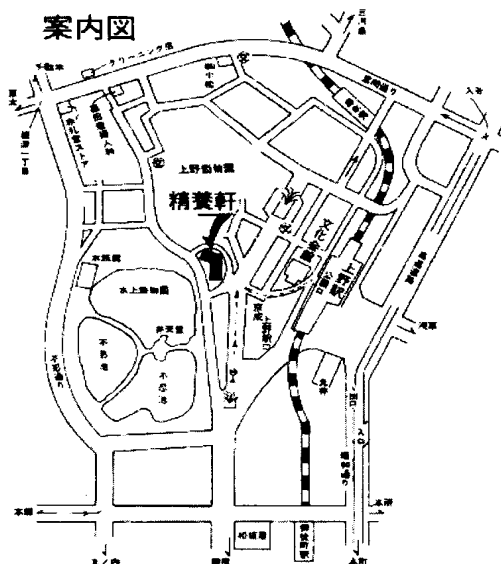
講演会：12:30 ～ 12:50

発表者：土屋 憲 司 氏（47年卒、有限会社K&M 代表取締役）

テーマ：「生産業務請負業の今後のあるべき姿とは」

懇親会：13:00 ～ 15:00

★ 会場のご案内



会場へのアクセス

- ① J R 上野駅公園口・・・徒歩5分
- ② 京成上野駅・・・徒歩5分
- ③ 地下鉄上野駅・・・徒歩8分
- ④ 地下鉄御徒町駅・・・徒歩12分

返信葉書は、
10月24日（土）必着で御投函下さい